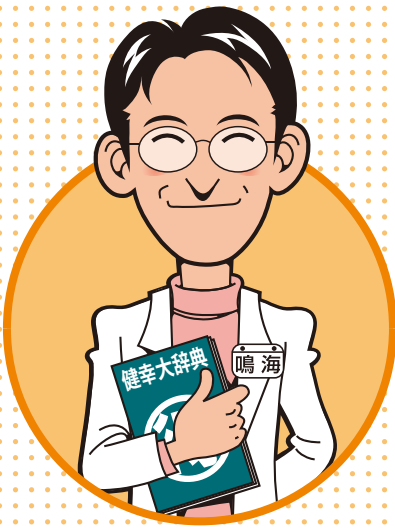


健幸タイム



損をする智慧

仏教には「般若の智慧」というのがあるそうですね。「般若」はもと「智慧」という意味なので「智慧の中の智慧」という感じかもしれません。さあ、「一般的な知恵とは少し違う般若の智慧」とは？」

「般若の智慧」第一の智慧・損をする智慧

「損をする」という言葉を聞いて「なるべく損をしないようにしては」と身構えてしまうのが一般的な知恵だとしたら、「自分はどの程度の損をできるのだろうか」と考えるのが「般若の智慧」の第一の知恵「損をする智慧」なのだそうです。

作家のひろさちやさんは「損する生き方」のススメ」という著書のなかで次のような体験を述べています。

(インドの旅で)私は町へ買い物に出て、「千ルピー」といわれた紅茶を三百ルピーまで値切ったことがあります。値下げの交渉は面白いなど思いながら三百ルピーで買ったところ、すぐあとに女の人が買いに来て同じ紅茶を百ルピーで買って行った。だから、通訳に入ってもらって、「これはどういうわけなんだ」と聞いたことがあります。すると、「こういのです。

「あなたの買った紅茶は、じつは二百ルピーの紅茶である。でも、あなたが三百ルピーで買ってくれたから、私はハッピーになって、あの女に百ルピーで売ってあげたんです」と。私が出した三百ルピーと女の出した百ルピーで、合わせて四百ルピー。「計算はピッタリ合いますよ」という返事でした。(中略)インド人は、そうした損する智慧を持っているんですね。

ひろさんの「損」がお店の人の「得」になり、お店の人もその「得」を「損」にまわした結果、百ルピーで買うことができた女性に「得」がまわって結果的に**全体の豊さやハッピーにつながっていく。**

それぞれが置かれた立場でできるちょうどいい損をすることが「損をする智慧」ということなのです。

禅僧は3つの言葉だけでよい

同著の中でひろさんは禅僧から聞いたお話も紹介していました。

「禅僧というのは三つの言葉をしゃべればいいんです。人が話に来るでしょう。そういうときはまず、『あ、そう』と相槌を打つ。そして相手が、こないことがありましたというたら、『よかったね』といってあげる。いい話ではなくて、いろいろな悩みを打ち明けられたときは、『そりゃ、困ったね』と。この三語で十分です。」

ふつう私たちは人と話をしてるとき、なかなか相手の話を聞いていないものです。「この次、おれは何をいおうか」と、自分のことばかり考えているから、相手の話に耳を傾けない。でも、そうじゃなくて相手の言葉に耳を傾けて「あ、そう」「よかったね」「困ったね」といってあげる。これで十分なんですね。そしてそれが**時間の布施**になるのです。

なるほどー。

「時間の布施」という「損」をすることもまた**全体の豊さやハッピーにつながる循環**となっていくんですね。

身近なところで「損をする智慧」を使う

ちなみに、僕は「タクシーではお釣りをもらわない」「いつか「損」を実践しています。そのために五百円玉は常に欠かせないわけですが(笑)運転手さんは喜んでくれるし、そのあとに乗車したお客さんにも喜びの波動が伝わって、結果、全体の豊さやハッピーにもつながっていく。とくにあまり感じのよくなかった運転手さん(失礼!)に実践したときの「えっ!こんなに感じが悪いのいいんですか?」という、こころの声が伝わってくるのもまた面白い(笑)。

それぞれが置かれた立場でできる「ちょうどいい損」をすることが、全体の豊さやハッピーにつながっていく**「損をする智慧」**。

身近なところからちよつどいい損をしてみると、世の中が少しずつ優しくなっていくかもしれません。

参考文献

ひろさちや・石井裕之著 『損する生き方』のススメ(フォレスト出版)

鳴海周平プロフィール



1971年北海道生まれ。心身の波動を高める製品の開発・普及をおこなう(株)エヌ・ピュア代表。健幸エッセイスト、ヒーラーとしても、ラジオ番組や講演、ブログ、著作などを通じて「こころとからだの健幸情報」を発信している。著書に「医者いらずになる1分間健康法」(帯津良一氏との共著)「小食・不食・快食の時代へ」(はせくらみゆき氏との共著)(ここまでワニ・プラス刊)「1分間ヒーリング」(徳間書店刊)などがある。最新刊は「運」のミカタ(ワニ・プラス)。



LINE

友達登録
こちらから

アミーバブログ

<https://ameblo.jp/npure/>

エヌ・ピュア公式サイト

<https://npure.co.jp>